

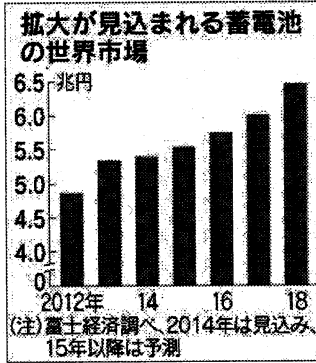
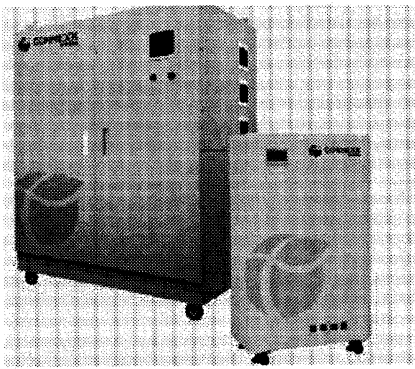
# 柏で新型蓄電池実用化

## 設備導入 売上高12億円めざす

次世代電池のベンチャー企業、CONNEX SYSTEMS（京都市、塚本寿社長）は、新型蓄電池の実用化に向けた設備を導入する。9月までに千葉県柏市と京都市の拠点を計7億円を投資、2016年度に12億円の売り上げを目指す。千葉県の研究開発支援施設を利用し、県内財団法人から支援を受けており、千葉を主要拠点に位置づける。

## 県の研究開発施設利用

同社は千葉県産業振興センター（千葉市）が運営するインキュベーション



柏市の拠点を中心に新型蓄電池の事業を拡大する

ン施設「東葛テクノプラザ」（柏市）に入居。これまで計3000万円を投じて実証試験などの設備を整えてきた。検査機器や外部調達する電池などの部材購入に7億円を投じ、152年以内に製品化につなげる。京都の拠点との分担割合は今後詰めるが、大量生産品ではないため、柏市の既存拠点でも、組み立てや検査に対応できるとみている。

同社は11年に日本電池（現・GSユアサ）出身の技術者が設立。これまでに経済産業省や新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の支援事業などに採択された実績を持つ。14年7月には

財団法人ひまわりベンチャー育成基金（千葉市、理事長・佐久間英利千葉銀行頭取）の助成先にも選定され、300万円の助成金を受けた。開発するのは産業用電池として一般的な鉛電池と、スマートフォン（スマホ）などの高性能品に使用されるリチウムイオン電池とを組み合わせた蓄電池。両方の電池を並列につなぎ、自社の回路設計技術を使うことで動作環境に応じて最適な稼働に切り替える。

併用することでそれぞれの電池の欠点を補完する。例えばリチウムイオン電池は過度に負担がかかると発煙や発火の恐れがあり、低温では極端に動作性能が落ちる。こうした場合は安全性が高く低温でも動作できる鉛電池に切り替える。

主に太陽光や風力発電向けの蓄電池として受注し、鉄道やBEMS（ピークシフト）をみて後押しする。調査会社も年々、市場が拡大すると予想する。東日本大震災以降、エネルギー政策が見直されていることも普及を後押しする。